



奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



知名町住吉の暗川

すっかり冬の季節となりました。雨の日が多く、どんよりとした天気が続きます。雨が多いのは奄美の冬の特徴ですが、今年はこれ以上の雨は怖いという思いがあります。豪雨災害が毎年続く、この不安定な気象は何を意味するのでしょうか？

さて、豪雨の際には川の氾濫で被害が拡大した場所もあると聞きました。川は時に人の生活を脅かす恐ろしいものですが、普段は恵みを与えてくれるなくてはならない存在です。

沖永良部島や与論島には地上を流れる川はほとんどありませんが、鍾乳洞などに流れる地下の川があります。この地下の水は、島民の生活を支える大切な水資源となっています。

またこの地下水で作られる鍾乳洞は、未だ発見されていないものがたくさんあるそうです。自分たちの足元にまだ眠っている未開の地があるとは、なんともロマンある話です。また、未開の地には新種の生物がいるイメージがあります。これから、たくさんの新種が発見されるかもしれませんね。

奄美群島は、島の成り立ちがそれぞれの島ごとに異なります。そして、その島それぞれの自然があります。自分たちの身近な自然について新しい発見をしていきませんか？ (吉田)



今の時期に見られる動植物



ヒメジソ

林縁に生える1年生草本。日本各地に分布。シソ科の植物で白色やピンク色の小さな花を咲かせる。



サザンカ

山地の比較的明るい林内や林縁に生える常緑低木。実は、ツバキと同様に頭髮油などに用いられる。



オシドリ（メス）

冬の時期に貯水池や河川で見られる。オスに比べメスの体色は地味。目の周辺から後方へ白く流れる模様が目立つ。



ヒメウコンエダシャク

オスの前翅には半透明の大きな刻孔がある。近似種にウコンエダシャクがいる。前翅後角の紋がはっきりしていればウコンエダシャク。



今季の一枚 「アマミヒゲボタル」

アマミヒゲボタルは、夏の時期に幼虫として生活し、今の寒い時期に成虫となります。ホタルは夏の風物詩だと思っていましたが、かならずしもそうではないようです。

このホタルは幼虫の時に光ります。成虫では光らないと言われていたようですが、今はまだよく分かっていないようです。知っている方がいれば是非教えてください。

また、アマミヒゲボタルというのは最近の名前だそうです。図鑑などには「アマミクシヒゲボタル」と載っています。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は

与論町

です



与論島は、山らしい山も川らしい川も無いコバルトブルーの海に浮かび輝く白い砂浜に囲まれた人情豊かな人々の住む小島である。

【島クロキ】

黒檀は台風や潮風に強いこと、材の用途も高いことから指定され、庭木や垣根、耕地防風林などに最適である。

与論町の木



紹介！

『 自然環境への学校や地域の取り組み 』

地球規模で自然環境の破壊が進んでいるなか、本町においては「パナウル王国の環境憲法」を平成14年に制定し、与論町環境総合計画書が作成された。

「いのち輝く美しい故郷・与論」を合言葉に掲げ与論町環境宣言が採択されている。

陸の緑の再生への取組



降って沸いた離島観光ブームが去り、美しい珊瑚が死滅し、耕地整備等で屋敷林や雑木林の緑が失われていた事実の反省に立って「YORON ちゅらさんどーわーちゃが ユンヌは ちゅらさん、ちゅらさん」と唱え、環境の再生計画に取り掛かった。

ダイバーの仲間が目に見える行動を起こしたのがサンゴの再生への取り組みだった。定期的なリーフチェックとサンゴの移植や保護活動と呼びかけインターネットを通して報告がなされてきた。大学の研究機関や民間の会社等とも連携をとって、さまざまな実験が地道におこなわれた結果、現在サンゴの再生が確実に成果をあげている。

海の不作は陸の緑の貧相によると昔から伝えられている。陸の緑の再生に仲間が集まった。

サンゴの再生は陸の緑の再生を目標に、絶滅しかけていたオオゴマダラ（学名：*Idea leuconoe*）の増殖に取り組んだ。又、度重なる台風による被害で海岸防風林が機能を失いつつあるのを目にして、モクマオウー辺倒の植栽を改め、在来の植物を使った海岸植生の造成を提案して実証に取り組んでいる。

オオゴマダラの食草、ホウライカガミを配布したり、公共用地に植栽しているが、ツマベニチョウの食草ギョボクも増やしたい。



オオゴマダラのさなぎ

ヨロンマラソン完走記念植樹の風景



ヨロンコースタルリゾート地の砂浜に在来種を考慮した海岸植生を試して、ヨロンマラソン完走記念植樹を16回大会から継続して実施している。

元の環境に戻すだけでなく、新しい環境として復活と再生するためには色々な研究と工夫がいる。与論島の未来はすべての事柄が環境にかかっている。

森と水と海の資源豊かな奄美には未来が広がっている。
道の島を旅をしながら思う。

奄美の風だよりを 未来志向にしていきたいと。

(NPO法人 与論ウナル学校代表 竹 盛隆)

いきもののふしぎ ~トンボの話~

とても身近な存在であるトンボ。少し前の時期までたくさんのトンボをみることが出来ました。今回は、トンボの子どもである「ヤゴ」を中心にお話をしたいと思います。

観察してみよう① 幼虫編

トンボの幼虫を「ヤゴ」と言います。ヤゴといってもさまざまな姿・かたちをしています。

クロスジギンヤンマ (幼虫)



大きさ：50mm内外
すみか：水草が多い池や沼。水底を歩いたり、水草につかまったりして生活し、行動が活発。
分布：全国

タイワンウチワヤンマ (幼虫)



大きさ：27mm内外
すみか：平地の池、ダム、調整池など、広い範囲の止水域。
分布：本州（東海地方、近畿地方南部、中国地方の瀬戸内側以南）、四国、九州、南西諸島

上で紹介した以外にも、尾ヒシのような尾鰭（びさい）と呼ばれる呼吸器官が発達したこんなかたちのヤゴもいます。また、ヤゴは成虫とは違い水中で生活をします。「水中」といっても、流水、止水、泥の中、水草のあるところなど種類によってさまざまな環境に生息しています。おもしろいもので、湿った土に穴をほって生活するものもいるそうです。

食事のしかた

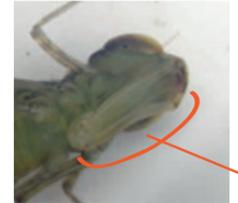
ヤゴは肉食です。そして、食事の際ヤゴの一番の特徴である下唇と呼ばれる「アゴ」が大活躍します。このアゴは収納可能で、目にもとまらぬ速さで伸び縮みします。



▲横から見た写真
普段はこのような状態で収納されています。



▲獲物を見つけ捕らえるところ
収納されていたアゴが前に出てきているのが分かります。

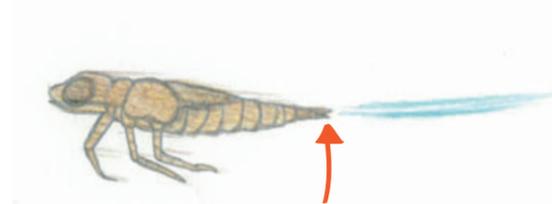


▲下から見た写真
アゴ（下唇）

移動方法

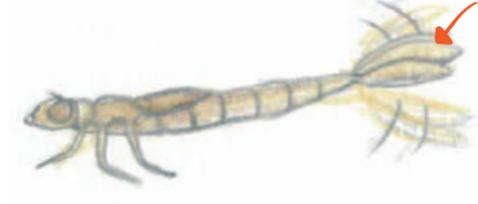
移動する方法は体の形によって変わります。しかし、共通しているのは、お尻にある呼吸器官を使うところです。

「ジェット噴射」



おしりから水を吸い込み勢いよく吹き出して、進みます。直腸の内壁にエラがあり、そこで呼吸します。

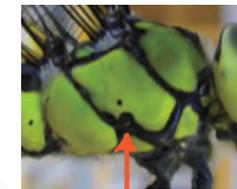
「くねくね。ジグザグ。」



尾鰭が発達しているものは、尾鰭を使って泳ぎます。または、体をくねらせてジグザグに泳ぎます。

観察してみよう② 成虫編

ヤゴから羽化をすると、見慣れた姿の成虫（トンボ）となります。成虫の体にもふしぎがたくさんつまっています。



気門
空気を取り込むための穴

この成虫は、左に載せたヤゴが羽化したものです！

成虫の特徴の一つ「複眼」
頭部の大部分を複眼が占めています。



複眼のアップ

旅をするトンボ「ウスバキトンボ」



南で発生したウスバキトンボは、世代を変えて北へ北へと移動します。しかし、寒さに弱いため北海道にたどり着くと、死に絶えます。写真は、大和村で撮られたもの。北へと移動する最中なのでしょうか。

トンボの寿命

幼虫の時代が長く、成虫の時代が短い生きものとして「セミ」が有名ですが、実はトンボも幼虫の時代が長いのです。種類にもよりますが、1ヶ月から7年にもなるトンボもいるらしいです。ヤゴを捕ってきて飼育するときには注意が必要です。羽化するまでの数か月とっていると、何年もかかるかもしれません。ちなみにセンターではヤゴを飼育していますが、冬を迎える前に十分に成長できなかったため、羽化は来年になりそうです。

参考文献 日本産幼虫図鑑(学習研究社 発行人:岡俊彦/編集人:志村隆) 小学館の図鑑NEO 飼育と観察(小学館 発行者:八巻孝夫) 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑(北海道大学図書刊行会 著者:杉村光俊 石田昇三 小島圭三 石田勝義 青木典司) トンボの不思議(どうぶつ社 著者:新井裕)

センター & 協議会 News



第12回 やせいのいきもの絵画展

とき：平成23年12月3日（土）～ 平成24年1月31日（火）

場所：奄美野生生物保護センター

今回のテーマは「奄美の自然の未来」です。子どもたちが願う奄美の自然の未来はどんなものなのでしょう。応募総数264点。応募されたすべての作品を展示していますので是非ご来館ください。



アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン

とき：平成23年10月1日～10月31日

特別イベント：平成23年10月8日（土）

あまくろと一緒にチラシやステッカーを配布し、アマミノクロウサギの交通事故防止を呼びかけました。



あまみワイルドライフセミナー

テーマ：カンコノキで発見された小さな蛾との共生関係

とき：平成23年10月30日（日）

場所：奄美博物館

京都大学の北川篤准教授をお迎えして開催しました。カンコノキだけに依存して生きるホソガという蛾との共生関係についてお話していただきました。



第12回やせいのいきもの絵画展賞状授与式

とき：平成23年12月3日（土）

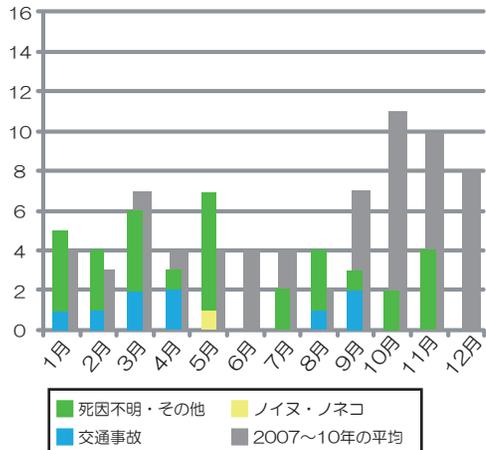
場所：奄美野生生物保護センター

12点の入賞作品が選ばれ、入賞者には協議会会長から賞状と副賞が授与されました。



アマミノクロウサギ死体確認数

(頭) (2011年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

安全運転

林道では20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう

不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守るようになります。

マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



犬・ねこに関するお知らせ

ねこは室内飼育、犬は室内もしくはリードをつけて外で飼いましょう。放し飼いをすると、交通事故にあつたり、他の犬・ねこから病気がうつつたり、迷子になってしまう原因になります。また、鑑札とマイクロチップを装着をしましょう。ペットの確実な身元証明書になるので、もし迷子になってしまった場合でも見つかる可能性が高まります。

いきものおもしろ写真館



ヒメハブ

普段は水辺にすることが多いのですが、何故かシダの上にとぐろを巻いていました。「おもしろ」写真館で紹介しましたが、今回は「おそろしい」です。草むらなどの地面だけではなく、上のほうにも気をつけなくてははいけませんね。

編集後記



久しぶりにアクティブレンジャーと一緒にアマミノクロウサギ調査に行ってきました。ある場所では、法面工事でアマミノクロウサギのフンが見られなくなつたそうです。幸い今は回復傾向にあるようですが、道などの工事には細心の注意を払ってほしいと心から思います。